

第2表 施肥管理の実際

(数字は10アール当り施用量 kg)

施用月日	肥料名	肥料別施用量	施肥成分量 (kg)				
			N	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	
昭和40年4月11日	基肥 (0.49—0.26—0.48)						
	堆肥 (6—11—11) 草化成2号 炭酸石灰 重焼燐 (35%)	2,000 100 500 30	9.8 6.0 — —	5.2 11.0 — 10.5	9.6 11.0 — —	285	
	肥料成分合計		15.8	26.7	20.6	285	
昭和40年 昭和41年	① 追肥						
	5月19日	尿素 (46%) 重焼燐 (60%) 塩化加里	10 20 10	4.6 — —	— 7.0 —	— — 6.0	— — 4.0
		肥料成分計		4.6	7.0	6.0	4.0
	② 7月25日	尿素 (46%) 重焼燐 (60%) 塩化加里	10 20 10	4.6 — —	— 7.0 —	— — 6.0	— — 4.0
		肥料成分計		4.6	7.0	6.0	4.0
	③ 9月20日	牛尿 (0.8%—0.05—1.2) 塩化加里	300 10	2.4 —	0.15 —	3.6 6.0	—
		肥料成分計		2.4	0.15	9.6	—
	④ 10月20日	硫酸 牛尿	20 300	4.0 2.4	— 0.15	— 3.6	— 3.6
		肥料成分計		6.6	0.15	3.6	—
	⑤ 11月21日	重焼燐 堆肥 (0.5—0.2—0.5)	20 2,000	— 10.0	7.0 4.0	— 10.0	4.0 —
		肥料成分計		10.0	11.0	10.0	4.0
	昭和41年	① 4月3日	草化成2号 (6—11—11) 硫酸石灰 重焼燐 ニノキカス+牛尿 (0.5—0.2—0.5)	60 200 800	3.6 — 4.0	6.6 — 1.6	6.6 — 4.0
		肥料成分計		7.6	8.2	10.6	120.0
② 5月19日		尿素 (46%) 重焼燐 (60%) 塩化加里	15 20 15	6.9 — —	— 7.0 —	— — 9.0	— — 4.0
		肥料成分計		6.9	7.0	9.0	4.0
③ 6月22日		尿素 (46%) 重焼燐 (60%) 塩化加里	8 20 8	3.7 — —	— 7.0 —	— — 4.8	— — 4.0
		肥料成分計		3.7	7.0	4.8	4.0
④ 7月16日		尿素 (46%) 重焼燐 (60%) 塩化加里	8 20 8	3.7 — —	— 7.0 —	— — 4.8	— — 4.0
		肥料成分計		3.7	7.0	4.8	4.0
⑤ 8月12日		重焼燐 牛尿	20 400	— 3.2	7.0 0.2	— 4.8	4.0 —
		肥料成分計		3.2	7.2	4.8	4.0
⑥ 9月10日		重焼燐 塩化加里	10 4	— —	3.5 —	— 2.4	2.0 —
		肥料成分計		—	3.5	2.4	2.0
⑦ 10月16日	硫酸 安	20	4.0	—	—	—	
	肥料成分計		4.0	—	—	—	
昭和41年4月3日より昭和41年10月16日まで ★の施肥成分合計 (kg/10 a)			29.1	39.9	36.4	138.0	

東京支店編集部

一〇アール一八トンの草づくり
現地ルポ

第1表 五味さんの採草地の草種と播種量 (kg/10a)

赤クローバ	0.3 kg
ラデノクローバ	0.5
ルーサン	0.2
オーチャードグラス	0.5
チモシー	1.0
イタリアンライグラス	1.0
計	3.5 kg

※参考

種子の1kg粒数や草生を考慮すると上記の播種量は、下記の組合せが適当と考えられる。

赤クローバ	0.5 kg
ラデノクローバ	0.2
ルーサン	0.5
オーチャードグラス	1.0
チモシー	0.5
イタリアンライグラス	0.3
計	3.0 kg

なおルーサンには根粒菌の接種を行なうことが望ましい。

第3表 まめ科割合

刈回数	刈取月日	10生 a 当量	まめ科割合
		kg	%
1	5. 18	3,660	40.0
2	6. 20	3,211	44.4
3	7. 14	2,980	42.6
4	8. 9	2,290	47.0
5	9. 8	2,410	58.0
6	10. 14	2,475	44.2
7	11. 10	1,030	70.4
計		18,056	(平均) 50.8

現地ルポ → 10アール18トンの草づくり

長野県の八ヶ岳山麓に東日本一賞を受賞した五味利幸さんの草畑を訪ねてみた。

八ヶ岳山麓は階段上の水田と養蚕が農業の主体をなしていたが最近では酪農やいわゆる高原野菜の栽培が大きくなり入れられている。五味さんの経営もその代表的なものである。



五味氏と混播草地

水田98[㌶] 穀菽19[㌶] (裏作17[㌶]) 野菜20[㌶] 飼料作物95[㌶] (裏作80[㌶])、この他に採草放牧地30[㌶]、林地55[㌶]が五味さんの経営面積で、農耕部門の収入が103・9万円、酪農部門の収入が、135・3万円となっている。

飼料作物の栽培面積は総面積の20%弱であるが収入では酪農部門が全収入の57%を占めていて経営のカナメとなっていることが窺われる。

草地面積は65[㌶]で、草地コンクールに参加したのはその内の10[㌶]である。この牧草の前作は野菜畑で、昭和40年から草地として利用している。家畜は搾乳牛6頭、育成牛2頭で購入飼料代は乳代の25%で自給飼料の給与量が豊富なことを示している。自給飼料としてデントコーン30[㌶]、裏作に家畜かぶ30[㌶]、青刈えんばく28[㌶]、実取りえんばく2[㌶]、青刈ライ麦10[㌶]、大麦10[㌶]をエンシレージ用や春先の青刈用に作付しているが、なんといっても自給飼料の主体は牧草で畑地の中の輪作草地の65[㌶]と採草放牧地の30[㌶]の生産に経営の成否がかけられている。

この牧草地は昭和40年4月29日に播種された。草種の組合せと10[㌶]当りの播種量は、16頁の第1表の通りである。

いね科牧草とまめ科牧草との組合せもよく、ルーサンのような高性能の草種も取り入れて草生も見事に造成されたが、なんといっても増産の基礎となったのは、入念かつ自信にあふれる施肥管理でありその詳細は第2表の通りである。

★参考

農林省畜産試験場草地部・小原道郎氏の試算によれば、いね科まめ科牧草混播草地の利用2年目の追肥(前年越冬前の追肥を含む)は普通熟畑に於て10[㌶]15トンの生草収量を期待するときは、10[㌶]当り肥料成分として窒素70kg、燐酸30kg、加里67kgを理論的に必要とするから、五味氏の場合は窒素、加里の施用量についてはさらに検討の要があるかもしれない。

★ ★ ★ ★ ★

10[㌶]当り7,500円の金肥と堆肥、牛尿の効果は素晴らしい反収となった。7回の刈取りによって得た10[㌶]当りの生草収量は実に18.056kgであった。その内容は第3表の通りである。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

8月上旬五味さんの圃場を訪ねたときは丁度刈取って間もない時であったが、再生は見事に盛夏の候であるが、夏枯れの気配もない。混在するルーサンも自信ありげな生長振りだ。『自給飼料の確保と増産は酪農経営上欠くことが出来ぬ。自給飼料の主体は牧草としたいし増収の根本は土地づくりだ』と言う五味さんの言葉を裏書きするようにデントコーンは黒々として八ヶ岳を背景に伸びていた。(中野 富雄)



五味氏の圃場

地力を物語るかの如く見事に成長したデントコーン。8月10日

編集部註： 第1表の※参考の文中、種子の1kg粒数および有効発芽率等については本誌42年4月号13頁小原通郎氏の牧草種子の実態を参照、また第3表の★参考の文中、普通熟畑の施肥量算定の方式は同じく農林省畜試の小原博士が本誌昭和41年8月号4頁第4表に掲げております。